

# 闘病支える家族の力に

長期入院患者に付き添う家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」として利用してもらおうと、札幌市中央区の北海道厚生年金会館ホテル(120室)がこのほど、同区内にある札幌医大病院に入院している子供の家族に、低料金で部屋を提供するサービスを始めた。札幌ではファミリーハウスの運営組織が秋にも発足する見込みで、専用施設建設への動きも広がっている。

長期入院患者に付き添う家族の軽減につながりそうだ。同ホテルは「闘病生活を支える家族のために、少しでも力になればうれしい」と話している。

ファミリーハウスへの関心は道内で高まりをみせ、北海道骨髄バンク推進協会(武田重幸事務局長)は、空き部屋のあるアパートや社員寮を開放してもらおうと活動している。

北大病院もすでに、札幌市

## 北海道厚生年金会館ホテル

1人1泊2500円の  
低料金でサービス

札幌医大病院  
入院小児対象

る。

同ホテルは、約800坪と近距離にある同病院に入院する中学生以下の子供を看護する家族を対象に、料金を通常の半額以下の1人1泊2500円に設定。病院からの紹介状があれば宿泊できる。空室状況によるが、原則として滞在は1週間まで。

同病院の小児入院患者の約4割が遠隔地に住む。長期滞在を強いられることが多い付き添い家族には、経済的負担

内30のホテルと契約し宿泊料金を最大4割まで割引する制度を設けている。ほかに、敷地内の遊休施設や空き部屋を家族に安く提供している病院もあるが、これらを含めてもファミリーハウスはまだ少ない。同協会の松宮和男札幌支部長は「道内に専用施設ができれば看病の家族にとって経済的、精神的にゆとりができる。できるだけ早く実現したい」と話している。

【鈴木 稿】